

スポーツを通して、工夫次第で障害者の可能性が広がること、コミュニケーションの手段になることを、実技を体験して理解する

講義目的・到達目標

障害者にとってスポーツとは何かを考える

障害がある人こそスポーツを行うべきではないか。スポーツは、競技性だけではなく、気軽に行い、継続していくことで健康維持・増進、体力の向上につながるものである。その他にも人とつながるためのコミュニケーション手段としても非常に効果的である。障害に合わせてルールを変更したり、方法を工夫することにより、いろいろなスポーツを行うことができる。このことから障害がある人も、自分は「できる!」という自信を持つこともできると考える。本科目では、障害がある人がスポーツを通じて「生きがい」を感じ、積極的に社会参加を行えるきっかけ作りを行うことが、障害者スポーツ指導員の役割であることを理解する。

できることを見えていますか

障害があると、どうしてもできないところを見ってしまうのでは……。障害がある人がスポーツを行うときは、「できるところ」を引き出していく考え方が大切である。スポーツを通じて、障害がある人の可能性を引き出す「できるところ」を見つける目を養うことが、本科目の目的である。

講義の構成

講義の流れ

1. 障害者スポーツの概要と現状について
2. 実技を3種目程度体験する 車いすバスケットボール、ボッチャ、サウンドテーブルテニス（視覚障害者対象の卓球）、フライングディスク、シッティングバレーボールなどから選択
3. グループでの新しいゲーム作り 身近な道具を使って、自分たちの施設でもできる体を動かすゲームを、様々な障害者ができるように工夫して作り上げ、発表をする。
4. 障害者スポーツをテーマにした映画を観て、障害者に対してスポーツとはどんな意味があるかを考える。
5. シンポジウムの開催 障害者スポーツに関わっている当事者やボランティアのゲストを迎え、現状や課題などを話してもらう。
6. 障害者や高齢者に対するスポーツの効果について



講義のポイント

1. 実技では、いろいろな種目を実際に体験することにより、障害者に対して工夫された実施方法や、ルールの変更点などを理解しやすくなり、様々な障害があっても、スポーツを行う可能性があることを実感できる。また種目によって、障害を持った講師を迎え、実際にどのようにスポーツを行っているか、見ることができる。
2. グループでの新しいゲーム作りでは受講生でいろいろな案を出しながら、身体障害、知的障害、精神障害、どの障害にも行えるゲームを作る過程を体験でき、障害者に対するゲームの考え方を理解することにつながり、出来上がったゲームは、自分たちのフィールドで実践ができると考える。

受講するにあたって

- ①事前学習の
すすめ (公財)日本障がい者スポーツ協会のホームページなどで、日本の障害者スポーツの現状を把握しておくことが望ましい。
- ②参考図書 (公財)日本障がい者スポーツ協会編『障害者スポーツ指導教本 初級・中級(改訂版)』 ぎょうせい
藤田紀昭『障害者スポーツの世界』 角川学芸出版
- ③評価基準 基本的には科目修了試験に代わるレポートと出席により、評価する。ただし、本科目では、実技を重要視しているため、実技の出席は必須として位置づけるものである。
- ④より学びを
深めるために 講義の受講前・後に参考図書を読むことにより、更に詳しく障害者スポーツの現状を理解することができると思われる。また、指導するにあたって、いろいろな情報を得ることができ、現場での指導に役立つと考える。